

1. 包括的支援事業

(1)総合相談支援 :住民の介護等の各種相談を幅広く受けつけて、制度横断的な支援を実施する

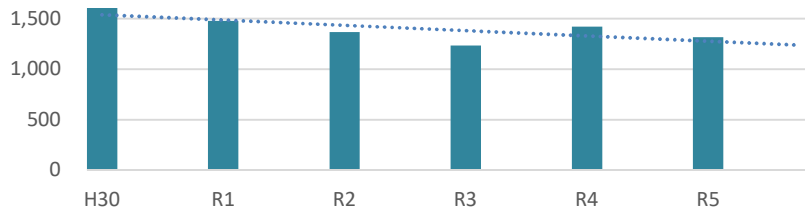
①相談対応延べ件数

(件)

総合相談支援 延べ件数	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値(R5)
		1,625	1,478	1,368	1,237	1,423	1,318

※令和6年2月末現在

(グラフ)年度別相談対応延べ件数(件)



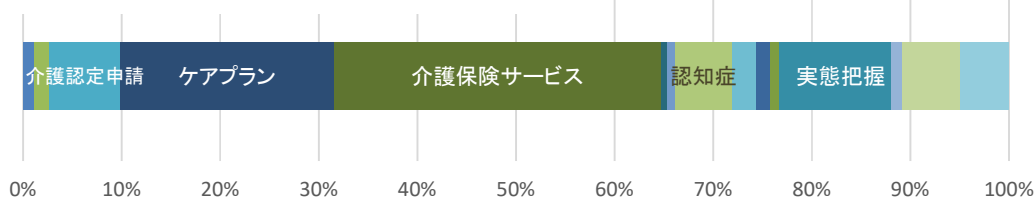
○総合相談窓口として、高齢者支援センターを「介護なんでも相談室」にわかりやすい名称をつけ、PRチラシを作成し、様々な場面で周知を行いました。

②相談内容別内訳(延べ件数)

(件)

	介護相談	在宅福祉サービス	介護認定申請	ケアプラン	介護保険サービス	民間サービス	介護保険関係	認知症	介護予防	権利擁護	障害	実態把握	経済的相談	虐待	その他	計
令和3年度	15	41	106	334	361	16	7	64	16	3	11	110	7	18	128	1,237
令和4年度	13	23	153	309	460	13	20	109	38	13	12	125	9	52	74	1,423
令和5年度	14	21	90	279	441	10	12	104	31	18	12	146	15	76	49	1,318

(グラフ)令和5年度相談内容別内訳延べ件数(割合)



③実態把握「お達者ですか訪問事業」

目的:孤立化の可能性がある高齢者を早期に把握し、必要な支援につなぐとともに、地域の課題やニーズを把握する。

対象者:75歳以上で健診、医療、介護保険サービスをいずれも利用していない人のうち、一人暮らし、高齢者のみ世帯、高齢者と子(1人)のみの世帯

年度	訪問数 合計	内訳		
		支援不要 (地域対応可能)	要支援 (地域対応可能だが要注意)	公的サービス必要
令和3年度	51人	33人(64.7%)	7人(13.7%)	11人(21.6%)
令和4年度	38人	28人(73.7%)	7人(18.4%)	3人(7.9%)
令和5年度	29人	20人(69.0%)	9人(31.0%)	0人(0%)

○支援の必要な方についての支援内容

介護予防事業(通所型サービスやサロン等)へつないだり、必要に応じ、民生委員と情報共有し見守り支援につなげました。

(2)権利擁護 : 成年後見制度の活用促進、高齢者虐待への対応など

相談内容別内訳

		成年後見	高齢者虐待	困難事例	消費者被害	合計
令和3年度	相談受付件数	6	9	14	1	30
	対応状況	町長申立 1 相談のみ 5	虐待対応 5 実態把握 4	対応中 13 終結 1	対応 0 相談のみ -	
令和4年度	相談受付件数	6	18	14	2	40
	対応状況	町長申立 1 相談のみ 5	虐待対応 9 実態把握 9	対応中 9 終結 5	対応 1 相談のみ 1	
令和5年度	相談受付件数	11	14	15	0	40
	対応状況	町長申立 0 相談のみ 11	虐待対応 14 実態把握 0	対応中 7 終結 8	対応 - 相談のみ -	
目標値(R5)	相談受付件数	5	12	—		17

○困難事例とは、本人や家族などに重層的な問題が存在している、必要と思われる支援を拒否する、サービス調整が困難、既存のサービスでは適切なサービスが見つからない等が該当し、件数は高止まり傾向にあります。

(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域ケア会議等を通じた自立支援型ケアマネジメントの支援、個別課題、地域課題の検討と支援
ケアマネジャーへの日常的な個別指導・相談、支援困難事例等への指導・助言

事業内容		令和4年度	令和5年度	目標値(R5)	
地域ケア会議	(1)個別課題の検討				
	目標設定会議	自立支援に基づき、利用者の「自己実現」「心身機能及び生活機能の維持・向上」「活動・参加」に焦点を当てた支援方針を多職種で検討する。	開催:11回 件数:24件	開催:9回 件数:18件 ※地震の影響によりR6.1~3月中止	件数:24件
	個別会議	高齢者が地域で生活する上での課題を解決するため、地域の関係者や専門職と連携し、個別の支援策を検討する。	件数:1件	件数:6件	件数:3件
	地域ケア推進会議	目標設定会議、個別会議から抽出された地域課題を共有し、課題を解決するための対策を検討する。	開催:1回	開催:1回	—
地域ケア会議	(2)地域課題の検討				
	地域福祉推進チームによる検討	福祉見守りマップの作成支援 (地域ぐるみの支え合いの仕組み、地域課題の見える化) ※地区実施率:46%(R5年度末) ◎地震を機に見守りの仕組みとして拡大を目指す。	開催:13回	開催:10回	6回
居宅介護支援事業所連絡会		3回	7回	3回	
■内容(R5) 5月23日 事業所連絡会(オンライン開催) 18名 6月9日(鳥屋地区)、7月13日(鹿西地区)、8月5日(鹿島地区)… 民生委員との合同研 延べ41名 6月13日、9月8日 相談支援専門員との合同研修会(七尾市と各※七尾市連絡会所属 延べ14名 11月16日 事例検討会~医療と介護の連携~ 21名					
介護保険サービス事業所連絡会(居宅・通所・訪問系)		1回	1回	3回	
■内容(R5) 5月23日 事業所連絡会(オンライン開催) 24事業所 31名参加 長寿福祉課・高齢者支援センター連絡事項、事業所間の意見交換					
介護支援専門員(ケアマネジャー)の個別支援	・居宅(介護予防)サービス計画の作成への助言 ・サービス担当者会議の開催支援及び助言 ・個別指導、相談への対応	延158件	延171件	延130件	

○今年度より、介護支援専門員と民生委員及び相談支援専門員との合同研修会を行い、今後も継続していきたいとの声がありました。

(4)地域ネットワークの構築

地域のあらゆる社会資源を活用して、地域における重層的な支援体制を構築する

令和5年度事業内容

民生児童委員及び地域福祉推進チームとの連携	
民生児童委員地区定例会への参加、個別ケースの相談対応 福祉推進チームの強化(福祉見守りマップの普及)	
地域密着型サービス事業所運営推進会議への出席	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームなごみの里鹿島 ・グループホームしあわせの里 ・グループホーム一青の家 ・第二鹿寿苑・グループホーム鹿寿苑 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護「恵寿みおや」 ・認知症対応型デイサービスひまわり ・笑顔の友の会(6地域密着型サービス事業所合同) ・ぐるーぷほーむ・たきのーほーむ福の神、コールナウ福の神(羽咋市)
まると福祉支援協議会(高齢者・障害者虐待防止ネットワーク)	
<p>■全体会 [目標値(R5):1回]</p> <p>中能登町まると福祉支援協議会は、『中能登町地域福祉計画』の趣旨を踏まえ、誰もが住み慣れた地域で暮らせるよう、地域共生社会の実現に向け、あらゆる福祉に関する課題について、まると協議し、必要な施策を、総合的かつ計画的に実施を推進する。</p> <p>開催日時:令和5年6月21日(行政サービス庁舎)</p>	
<p>■権利擁護部会 [目標値(R5):権利擁護連絡会:2回]</p> <p>誰もが住み慣れた地域で、地域の人々と支えあいながら、尊厳をもってその人らしい生活を継続するために、認知症の人や障がいのある人に対する地域住民の理解や、相談体制の充実を図り、誰でもなんでも「丸ごと」支えあう仕組みづくりや、権利擁護支援の地域連携ネットワークを構築する。</p> <p>第1回:年度末の開催を予定していたが、震災により中止</p> <p>研修会:令和5年11月19日(ラピア鹿島) 一般町民向けの成年後見制度セミナーを実施(金沢弁護士会/北島先生) 参加者:18名</p> <p>【その他活動】 権利擁護に関するパネル展示(R5.10福祉のつどい) /町広報誌にて虐待啓発(R5.11) 成年後見相談窓口の看板設置(R5.4)</p>	
<p>■生活支援部会 [目標値(R5):生活支援連絡会:2回]</p> <p>高齢者やその家族が、住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、適切な介護や福祉サービスの提供はもちろん、地域にある様々な社会資源を活用する必要があるため、公的サービスでは対応しきれない生活支援の仕組みづくりや、地域組織・商店との連携、当事者同士が相談できる体制づくりなどの推進を目指すことを目的に『生活支援部会』を実施する。</p> <p>第1回:令和5年11月16日(社会福祉協議会事務局で実施) →「なかのと結び隊連絡会」と合同で実施。有償ボランティアの本格稼働に焦点を絞って話し合いを行う。 プレ実施の現状報告と課題を協議し、今年度中の正式スタートの了承を得る。</p> <p>第2回:年度末の開催を予定していたが、震災により中止</p> <p>【その他活動】 生活支援コーディネーターパネル展示&寸劇DVD鑑賞(R5.10福祉のつどい) /社協広報誌にて活動報告(R6.3) ケーブルテレビを活用した「なかのと結び隊」の周知(R6.1)</p>	

○地域連携ネットワーク及びまると福祉支援協議会の運営等の中核的役割を担う「中核機関」を中心に、普及啓発や取組みの促進を図りました。震災以降の活動が中止になりましたが、なかのと結び隊(有償ボランティア)の本格稼働に結びつけることができました。

(5)在宅医療・介護連携推進事業

地域の医療と介護の関係機関が連携し、在宅医療と介護が一体的に継続して提供できる体制を構築する。

令和5年度事業内容

在宅医療・介護連携に関する相談支援	・在宅医療・介護連携支援コーディネーターを中能登訪問看護ステーションに配置 ・PRチラシを作成し、医療や介護関係機関などに配布をし相談窓口の周知を図った。 (実績)相談件数:57件(R4:40件) ケアマネジャー、医療機関などなどからの相談 訪問件数:23件(R4:12件) 退院調整、医療機関と在宅医療・介護との調整						
住民への普及啓発	・オンライン講演会 11月12日 映画「ぼけますから、よろしくお願ひします」上映会及びミニ講座 (対象者) 一般住民、関係機関など 約460名参加 ・町の出前講座 テーマ:「人生会議について」6地区 (5/10廿九日健康サロン 6/13末坂もみじ会 6/20後山あすなる会 7/19黒氏寄ってこられ) (9/15和楽家 11/7西馬場友ゆう会)						
医療・介護関係者の情報共有の支援	・急変時の情報連携 民生委員に協力をいただき、『緊急ファイル』の設置者約600名の地区別名簿の情報を更新し、中能登消防署に情報提供し、緊急時の迅速な対応につなげることとした。						
多職種研修会・事例検討	<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>目標値(R5)</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>5回</td> <td>8回</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	目標値(R5)	3回	5回	8回
令和4年度	令和5年度	目標値(R5)					
3回	5回	8回					
あじさい会(中能登町在宅医療介護連携を考える会)研修会							
<table border="1"> <tr> <td> <p>■内容(R5)</p> <p>役員会(コアメンバー会議) 年3回</p> <p>在宅医療介護連携協議会 年1回</p> <p>講演会・研修会 年5回</p> <p>6月28日 研修会 「認知症と便秘の薬」</p> <p>6月29日 研修会 「みんなで呼吸器勉強会」</p> <p>7月20日 研修会 「高齢者の嚥下機能」</p> <p>9月28日 研修会 「8050について」</p> <p>11月16日 居宅介護支援事業所連絡会「医療介護連携について事例検討会」「入退院支援について意見交換会」</p> </td> </tr> </table>		<p>■内容(R5)</p> <p>役員会(コアメンバー会議) 年3回</p> <p>在宅医療介護連携協議会 年1回</p> <p>講演会・研修会 年5回</p> <p>6月28日 研修会 「認知症と便秘の薬」</p> <p>6月29日 研修会 「みんなで呼吸器勉強会」</p> <p>7月20日 研修会 「高齢者の嚥下機能」</p> <p>9月28日 研修会 「8050について」</p> <p>11月16日 居宅介護支援事業所連絡会「医療介護連携について事例検討会」「入退院支援について意見交換会」</p>					
<p>■内容(R5)</p> <p>役員会(コアメンバー会議) 年3回</p> <p>在宅医療介護連携協議会 年1回</p> <p>講演会・研修会 年5回</p> <p>6月28日 研修会 「認知症と便秘の薬」</p> <p>6月29日 研修会 「みんなで呼吸器勉強会」</p> <p>7月20日 研修会 「高齢者の嚥下機能」</p> <p>9月28日 研修会 「8050について」</p> <p>11月16日 居宅介護支援事業所連絡会「医療介護連携について事例検討会」「入退院支援について意見交換会」</p>							

○中能登訪問看護ステーションに事業委託を行い、在宅医療と介護の連携及び相談体制の強化や住民への普及啓発及び研修会等の充実を図ることができました。

(6) 認知症施策の推進

事業内容		令和4年度			令和5年度			目標値(R5)		
		開催回数	参加者数		開催回数	参加者数		開催回数	参加者数	
事業名	内容		実人数	延人数		実人数	延人数		実人数	延人数
あたま元気アップ教室	認知症予防や脳活性化運動等の実践を学ぶ。	※介護予防事業「あしこし元気アップ教室」と一体化し実施			※介護予防事業「あしこし元気アップ教室」と一体化し実施			—	—	—
認知症に関する講座	出前講座にて、認知症予防についての普及啓発を行う。	4回	61人	—	2回	22人	—	—	—	—
認知症サポーター養成講座	認知症キャラバンメイトによる講座 ・一般向け講座 ・出前講座 ・鹿西高校1年生 ・各小学校4年生(3校) ※認知症サポーター:認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者 ※認知症キャラバンメイト:認知症の普及啓発を行う者 ※認知症キャラバンメイト町内登録者:22人	15回	369人	認知症サポーター数 3,230人	13回	340人	認知症サポーター数 3,570人	6回	300人	認知症サポーター数 3,497人
認知症サポーターステップアップ講座	認知症サポーターのスキルアップ及び情報交換、交流	1回	13人	—	1回	9人	—	1回	—	—
認知症初期集中支援チームによる支援	認知症の人及びその家族に対し、必要な初期支援を集中的に行い自立に向けた支援を行う。	—	—	—	—	—	—	6回	—	—
認知症地域支援推進員	認知症カフェの運営、認知症相談支援、関係機関との連携を行う。 (推進員:高齢者支援センター、一青の家、社協居宅、鹿寿苑居宅)	—	—	5人	—	—	5人	—	—	4人
認知症カフェ	青空カフェ (運営:なかのと若年性認知症家族の会)	9回	—	100人	7回	—	94人	4か所にて実施		
	ひととき (運営:グループホーム一青の家)	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催			※新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催					
	ひまわり (運営:認知症対応型デイサービスひまわり)	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催			※新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催					
	みらいcafé (運営:恵寿みおや)	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催			※新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催					
高齢者等安心ネットワーク事業		事前登録者	11名 (うち新規登録2名)		15名 (うち新規登録5名)		15名			
認知症等で行方不明になるおそれのある高齢者を事前登録し、行方不明時に情報を協力機関に発信し、可能な範囲で捜索に協力してもらい、出来るだけ早く発見し保護するための仕組み。また、地域の高齢者のゆるやかな見守りも兼ねている。		協力機関	53か所		53か所		50か所			

○「認知症カフェ」は、介護保険サービス事業所において新型コロナウイルス感染拡大防止等の影響が引き続きあり、開催ができない状況にありましたが、青空カフェは、本人・家族・支援者等が集う場として継続して開催しました。
○認知症初期集中支援チームによる支援ができなかったため、次年度は取り組んでいきます。

(7)生活支援体制整備

生活支援コーディネーターを社会福祉協議会・高齢者支援センターに各1名ずつ配置し、地域の高齢者の生活支援のニーズを把握し地域における支え合いの体制づくりを推進する

取り組み		令和5年度 事業内容	実施状況
地域の資源の見える化	社会福祉協議会ホームページ「高齢者お役立ち情報」を活用した情報提供と活用	お役立ち情報の更新	通年(随時)
関係者のネットワーク	地域福祉推進チームの活動支援	福祉見守りマップを推進チームで作成し、地区の見守り体制のあり方や生活課題をメンバーで協議し共有する。 ※令和5年度は福祉支援マップ作成地区50%を目標に「チラシ」「福祉のつどい」「民生委員向け勉強会」などで告知する。 【R3:1件(2.2%) /R4:14件(28.8%) /R5:21件(46.6%)】	実施率46% (R4:実施率28%)
	生活支援に関する協議会の設置・運営	「中能登町まるごと福祉支援協議会」の生活支援部会を生活支援体制整備の協議会と位置づけ、当町の生活支援をさまざまな視点で協議する場とした。 ※11月に「なかのと結び隊連絡会」と合同で実施。有償ボランティアの本格稼働に焦点を絞って話し合いを実施した。	1回 (11月)
サービスのマッチング	フードドライブ(集める)&パントリー(受け取る)	ひとり親世帯、在宅介護世帯、生活保護受給者、その他生活支援が必要な世帯への生活支援として、各家庭で不要となった食品を集め、必要な方へ配布する。 (配布世帯数→1回:37世帯/2回:55世帯)	介護用品配布 1回 フードドライブ 3回 フードパントリー 2回
生活支援サービスの創出	「なかのと結びネット」の活用	災害時や生活困窮者への支援のために、食品や日用品等の寄付を迅速に呼びかけるためのネットワーク体制を整備する。 ※個別支援:2件(4月:在宅者の男性/1月:被災者の男性)	会員数:55人 (R4:48人) 個別案件:2件
	なかのと結び隊(有償ボランティア)実施に向けての取り組み	地域の生活課題などの、ちょっとした困りごとを「有償ボランティア」の仕組みを活用して解決を目指す。 ・安定したサポーターの確保 サロン連絡会等で告知/地域向け養成講座の実施/支援者向け養成講座の実施(ケアマネ連絡会にて) ・地域への定着(プレ実施から本格稼働へ) 地域ニーズとサポーターをマッチングしサービスに繋げる。ケアマネ等の支援者や民生委員への周知のみだた、安定的な実績を確保できた。 ・普及活動 ①養成講座の様子をケーブルテレビで放送する ②社協広報誌を活用した実績報告 ③家庭学習用のDVD教材の作成	36名+1事業所 (R4:9名) 122件 (R4:実績なし) ①R6.1~ ②R6.3 ③R5.7~
生活支援の担い手養成	介護職員初任者研修	中能登町における介護職員の不足およびボランティアの担い手不足を補うため企画・実施する。 ※3か年計画の3年目(11名/8名/7名)	7~11月 (全130時間) 受講者:7名 (R4:8名)

○活動のテーマを「なかのと結び隊」の本格稼働に焦点を絞り活動しました。震災以降予定していた部会ができなくなりましたが、令和5年度末の有償ボランティアの本格稼働に道筋を立てることができました。

○ひきつづき地域福祉推進チームによる「福祉見守りマップの作成支援」を行い、平時からの見守りを災害時に役立てるよう支援を行います。

2. 指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

高齢者の自立支援を目的として、心身の状況、その置かれている環境、その他の状況に応じて、対象者自らの選択に基づき介護予防に向けたケアマネジメントを行う

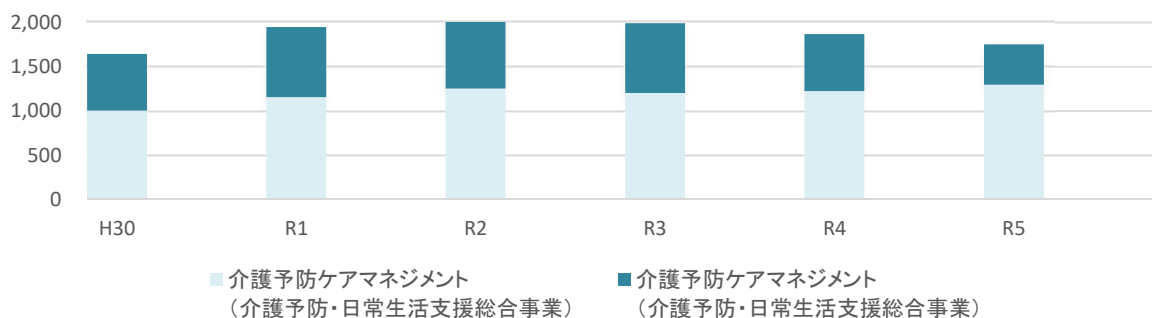
(1) 給付件数

(件)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	目標値
指定介護予防支援(予防給付)	1,005	1,154	1,252	1,202	1,226	1,297	1,150
介護予防ケアマネジメント (介護予防・日常生活支援総合事業)	642	796	886	790	642	457	-

※令和6年2月現在

(グラフ) 年度別給付件数(件)



(2) 令和5年度月別給付件数

① 指定介護予防支援(予防給付)

対象者: 要支援1・2と判定され、介護保険のサービスを利用している方。

(件)

事業所/利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域包括支援センター	21	22	19	19	17	17	18	20	20	15	16	-	204
(委託)居宅介護支援事業所(※)	89	88	95	94	99	101	109	105	108	97	108	-	1,093
計	110	110	114	113	116	118	127	125	128	112	124	-	1,297

② 介護予防ケアマネジメント(介護予防・日常生活支援総合事業)

対象者: 要支援1・2、事業対象者と判定され、訪問型サービス・通所型サービスのみ利用している方。

(件)

事業所/利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域包括支援センター	8	7	9	9	9	9	9	8	9	8	9	-	94
(委託)居宅介護支援事業所(※)	34	32	36	33	33	35	30	33	40	26	31	-	363
計	42	39	45	42	42	44	39	41	49	34	40	-	457

○保険者主催の「ケアプラン点検」に参加し、居宅介護支援事業所の介護支援専門員が作成したケアプランを検証し、資質向上のための支援を行いました。介護予防支援等においては、震災により遠方に避難した方が、ひきつづき、避難先で介護予防サービスが利用できるように、金沢市、加賀市にある居宅介護支援事業所にケアプラン作成委託を行いました。

3. 介護予防・日常生活支援総合事業

(1) 介護予防・生活支援サービス事業

地域の実情に応じて、住民等の多様な団体などが参画し、多様なサービスを充実することで、地域の支え合い体制づくりを推進し、要支援者等の方に対する支援を行う。

事業内容	令和4年度			令和5年度			目標値(R5)		
	開催回数	実人数	延人数	開催回数	実人数	延人数	開催回数	実人数	延人数
訪問型サービス									
1) 現行相当サービス	通年	—	274人	通年	—	163人	通年	—	276人
2) 訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)	—	—	—	通年	1	10	—	—	—
通所型サービス									
1) 現行相当サービス	通年	—	989人	通年	—	842人	通年	—	1,296人
2) 通所型サービスC(短期集中予防サービス) (事業名)あしこし元気アップ教室 (対象者)事業対象者、要支援1・2判定者のうち、運動器機能や認知機能が低下している者(他の通所サービス事業を利用していない者) (実施内容)リハビリ職による体操支援	11回	4人	38人	26回 (13回 2クール)	17人	197人	通年	10人	—
その他の生活支援サービス									
1) 訪問・通所一体型サービス(短期集中予防サービス)事業 (事業名)「スーパー元気アップ塾」(個別支援) (対象者)事業対象者、要支援1・2判定者のうち、①運動器機能が低下している者(他の通所サービス事業を利用していない者)②入院をきっかけに、体力・筋力が低下し、主治医等が短期間の支援で回復が見込めると判断した者 (実施内容)訪問支援(リハビリ職が自宅へ訪問)と通所支援(通所でのリハビリ職による個別体操支援)の組み合わせ	最大 6か月	10人	241人	最大 6か月	7人	191人	最大 6か月	15人	—

(2) 一般介護予防事業

住民主体の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進するとともに、リハビリテーション専門職を活かした自立支援に資する取組を推進し、要介護状態になっても、生きがい・役割を持って生活できる地域を構築することにより、介護予防を推進する

事業内容	令和4年度		令和5年度		目標値(R5)	
	開催回数	延人数	開催回数	延人数	開催回数	延人数
介護予防普及啓発事業						
① 介護予防に関する講座(出前講座など) ※R5:震災の影響により、1月以降は実施中止	17回	255人	16回	183人	30回	600人
② フレイル予防教室(高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施) ※R5年度から開始	—	—	3か所 (12回)	92人	—	—

事業内容		令和4年度			令和5年度			目標値(R5)					
		開催回数	実人数	延人数	開催回数	実人数	延人数	開催回数	実人数	延人数			
地域介護予防活動支援事業													
①地域つながりサロン (介護予防教室) ※R5:震災関連で1月2月の活動休止が目立つ		地域のお世話役を中心に、参加者で話し合いながら住民主体の活動を目指し取り組んでいる。(運動、レクリエーション、手芸、調理実習など) 【事業委託:町社会福祉協議会】 週1回～月1回			35 か所	698人	7,215 人	36 か所	650人	6,700 人	37 か所	—	—
②いきいき百歳体操 ※R5:震災の影響により、活動休止期間あり		高知市で開発された筋力アップ体操。DVDを見ながら手首、足首におもりをつけて体操を行っている。 週1～2回			25 か所	343人	10,782 人	24 か所	330人	9,450 人	27 か所	—	—
③シルバーリハビリ体操教室		関節や筋肉の動きを良くすることを目的とした「いつでも、どこでも、一人でも」できる介護予防体操で、シルバーリハビリ体操3級指導士が体操指導を実施。(実施会場)老人福祉センターゆうゆう、各地区集会所など			26 か所	—	968人	29 か所	—	1,073 人	15 か所	—	—
		◎震災後、避難所にて体操実施 (実施会場)老人福祉センターゆうゆう、カルチャーセンター飛翔			—	—	—	2か所	(実施期間) ゆうゆう:R6.1.10～1.26まで カルチャー:R6.1.8～3.9まで				
自主 介護 予防 活動	①和楽家 ※R5:震災の影響により、活動休止期間あり	介護予防サポーター養成講座修了者が介護予防の自主活動を行っている。 月2回開催			19回	15人	177人	18回	14人	162人	—	—	—
	②中能登町健康友の会 ※R5:震災の影響により、活動休止期間あり	NPO法人たすけ愛が行っている介護予防自主活動グループ。体操教室・脳トレ教室・カフェを行っている。 月3回開催			35回	33人	949人	30回	30人	660人	—	—	—
地域リハビリテーション活動支援事業													
①シルバーリハビリ体操3級指導士養成講習会 養成者数:60人 活動者数:41人		高齢者の介護予防と地域での互助力を高めることを目指し、介護予防体操「シルバーリハビリ体操」を普及するボランティア「シルバーリハビリ体操指導士」を養成する。			開催なし			1クール(全8回) 養成者数:6人		R4 1クール(全8回)			
②シルバーリハビリ体操3級指導士活動支援 ※R5:震災の影響により全体連絡会は開催中止		全体連絡会や代表連絡会を開催し、各グループの活動について情報共有する。また、研修会を通して体操指導の質を高める。			全体または代表連絡会 4回 随時活動支援			代表連絡会3回 随時活動支援		全体連絡会3回 随時活動支援			
③いきいき百歳体操リハビリ支援 ※震災の影響により、開催中止		いきいき百歳体操教室へのリハビリ専門職による体操支援			9回			—		42回			

○地域つながりサロンやいきいき百歳体操など介護予防活動は新型コロナウイルス感染症流行前の活動状況に戻つつありましたが、震災の影響により、休止となる期間がありました。2月から徐々に活動を再開しています。
○シルバーリハビリ体操3級指導士においては、養成講習会を行い、新たに6名の指導士が誕生し、地域の通いの場で活動中です。また震災後、指導士自らの提案で避難所においてシルリハ体操を継続的に実施し、避難者に対するフレイル予防を行いました。
○地域の通いの場においては、住民の主体的な介護予防活動が継続されるよう活動支援を行いました。

4. 任意事業(地域包括支援センターの取組み)

高齢者が要介護状態、要支援状態となることを予防するまたは、これ以上悪化することを防止する

家族介護者支援

事業内容		令和4年度		令和5年度		目標値(R5)	
		参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数
家族支援事業							
■内容 ①家族介護者教室・交流会 介護者が日頃の介護から一時的に離れ、心身のリフレッシュを図るとともに、介護者同士の交流を深める。また、介護の知識を学ぶことにより、今後も在宅介護が継続できるように支援する。	1.認知症の勉強会、座談会	4人	6回	11人	5回	-	7回
	2.認知症の勉強会、座談会	8人		6人			
	3.リンゴ狩り	13人		12人			
	4.ワンコイン上映会&意見交換会	15人		19人			
	③男性介護者交流会	5人		5人			

5. その他

(1)地域看護学実習の受け入れ

- ・石川県立看護大学 5名
- ・七尾看護専門学校 7名

(2)地域密着型介護保険施設における運営指導 3事業所(第2鹿寿苑、認知症DSひまわり、社協居宅介護)

(3)ひきこもり支援における支援者会議の開催 第1回:9月25日 第2回:1月30日(震災のため中止)

6. 中能登町地域包括支援センターについて

日常生活圏域 : 1圏域

設置 : 直営1か所

名称 : 中能登町高齢者支援センター

職員配置:

保健師	2名	主任介護支援専門員	2名
社会福祉士	3名	介護支援専門員	1名(会計年度任用職員)